品質カイゼン室の花のソコが知りたい！

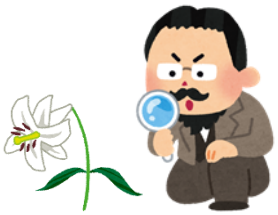
ユリ（オリエンタル）編

ユリ(オリエンタル)、華やかで大きな姿とその名前から
外国の花？っと思っていましたが違います。
和の花　日本のお花なのです！
明治時代は日本を代表する輸出品でした。

さて今回はそんなユリ(オリエンタル)の
栽培や楽しみ方など花のソコをお伝えします。

基本データ

学名:Lillium
分類:ユリ科　ユリ属
原産地:日本



来日したプラントハンターによって
魅力を見いだされ
世界的なお花に！

主な生産地
新潟県　高知県　宮崎県　北海道　山形県　福島県　千葉県

市場に入荷しているユリ（オリエンタル）たちをちょっとご紹介

シベリア

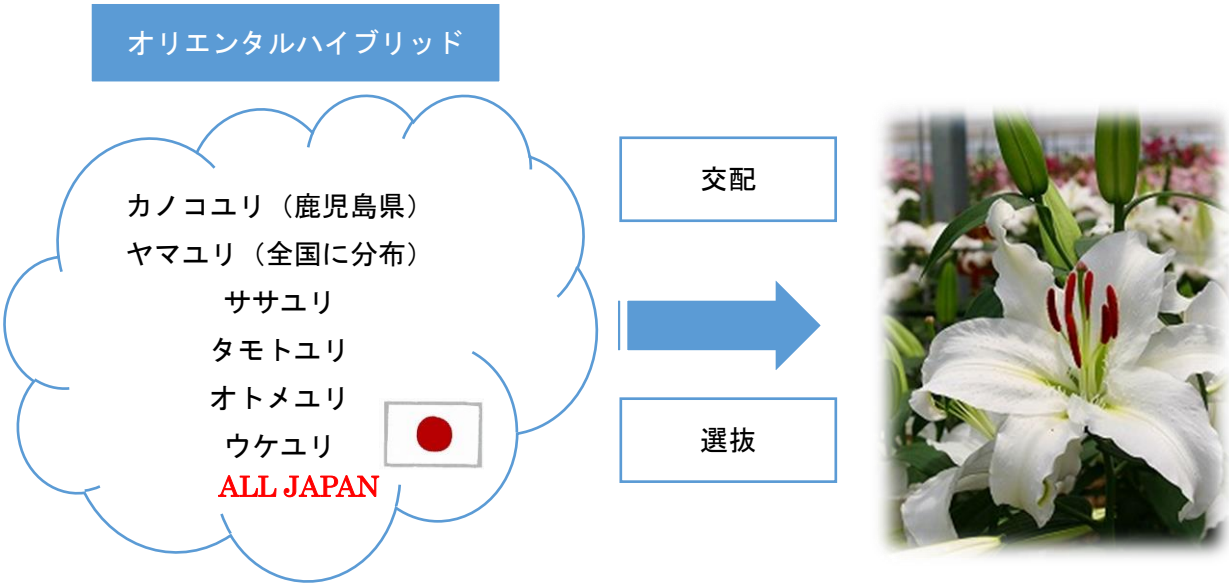
ゼルミラ

パトリシア

そもそもユリ（オリエンタル）って？

※花のソコが知りたい！ユリ分類編より

ユリ（オリエンタル）とはユリ園芸種分類のオリエンタルハイブリッドに属するユリの総称



ユリ（オリエンタル）に属するユリたちを掛け合わせて（ハイブリッドさせて）育種開発されたものだからオリエンタルハイブリッドと呼ばれているのですね。

球根

ユリ（オリエンタル）の球根

ぺりぺり剥くと・・・

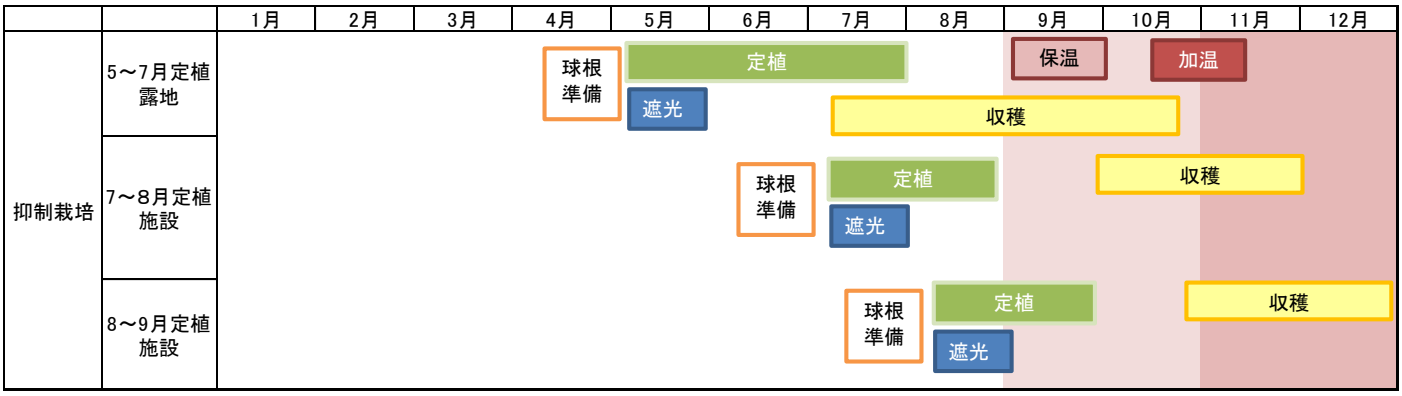
ノーズと呼ばれる芽が！

芽のチェックをすることで病気のチェックや腐りがないか、ノーズの大きさをみることで葉の枚数などどんなユリが出来るのか想像つくようです！プロは違いますね。。。。

栽培歴

今回は 6～11 月出荷が主体の寒冷地での作型をご紹介します。

〇抑制栽培



抑制栽培では高温による草丈不足　葉焼け症の発生に気をつけ、作型に適した品種選定や遮光・灌水等が必要となります。

〇球根準備

ユリの球根は冷蔵貯蔵が必要となります。

通常、冷蔵庫を用いますが、雪国の産地様では冬場に降り積もった雪を利用して、　雪室（ゆきむろ）　を作ります。

雪室の利点は冷房機のように電気を使わない点のみではなく、球根貯蔵に必要不可欠な適切な湿度も保つことも出来るのです。

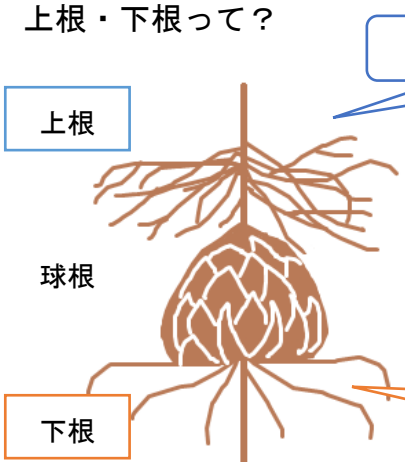
〇土づくり

オリエンタル系の切花生産にとって最も大切なのは土づくりとある書籍もあるほど土づくりは重要！

・保水性に富み排水良好な土壌を目指し、緑肥作物、良質肥料の投入を行います。

緑肥をすき込むことで土壌で腐食が増え、団粒構造が発達し、通気性、透水性、保水性が改善され、ユリの上根、下根の形成良好に繋がります。

上根・下根って？



上根とは球根より上に生える根っこのこと

上根は肥料や水分の吸収をする役割を持ちます。

下根とは球根の下に生える根っこのこと

下根は球根の固定する役割を持ちます。

上根・下根それぞれの役割を果たすことで素敵なユリが育つのですね。

〇温度　　上根の形成適正温度：10～15℃
定植の 3 日前には寒冷紗で圃場を被覆したっぷりと灌水し地温の低下と土壌水分の確保します。
遮光も行い、土中の温度を低く保つようにします。
その後は 15～25℃がユリにとって快適な温度なので高温期には寒冷紗等を用いて温度の確保を行います。

病害虫対策

葉枯病　灰色カビ病
（*Botorytis eliptica.*）
：葉に円形・楕円形の小斑点

対策⇒チッソ肥料の過多を避け、風通しの良い圃場整備が必要となります。罹病してしまった個体はすぐに焼却です。

バッタン病　（*Rhizopus* sp.）
：株元が腐り、倒れる

対策⇒高温時の定植作型は強遮光・散水（地温を下げる蒸気消毒処理後はできるだけ土を動かさない（溝切り後処理など）が必要です。

アブラムシ
アオムシ
ヨトウムシ

対策：風当たりの良いところからの発生が見られるので外からの飛来が主な原因と考えられます。そのため定期的な薬剤散布が必要です。

病害虫対策は病害虫を発生させない
環境づくりの徹底と、
農薬散布の際、周辺の方への伝達等
チームワークが必要となりますね。

前処理

黄化してしまったオリエンタルの葉

ユリ（オリエンタル）採花後の前処理にて **BA 6-ベンジルアミノプリン・GA ジベレリン**を含む**前処理剤**を使用することで葉の黄化が抑えられるとの結果もあります。

日持ち日数も+2 日の有意差があるとされています。
輸送時の花被の損傷と開葯花粉による花被の汚れを避けるため、すべての小花が開花していない状態で輸送されます。

↑市場での様子

採花後 10℃湿式 15 時間　もしくは　乾式 24 時間の予冷を行い 5℃低温下で保管されます。
ユリの原産国は温帯の日本、なので日持ち向上のためにも 5℃低温下での保管がベストとされています。
また、開花を抑制するため基本的に乾式での輸送となります。

ユリを楽しむ

〇切花栄養剤　切花栄養剤は糖質と抗菌剤を含むため発色、上位の蕾の開花率が向上します。

　今まで白やピンク等の色しかなかったオリエンタルですが、育種技術が進み、トランペット系のユリと交配することが出来るようになった結果、コルコバードの黄色のような色のバリエーションも増えました！

コルコバード

イエローウィーン

カティーナ

八重のオリエンタルも続々増えてきています。

エディーシャ

ジョアニータ

モニカ

ユリの魅力のひとつに蕾から咲いてくる時間的楽しみも持っているところ
生け水を良く吸うのでの量のチェックをしてあげてくださいね♪

参考資料

市村一雄　（2016）　切り花の日持ち技術　60 品目の切り前と品質保持
今西英雄　（2006）「ユリをつくりこなす」農文協
清水基夫　（1986）「日本のユリ」新光社

画像提供

津南町農業協同組合様
株式会社中村農園様

株）大田花き
品質カイゼン室